

<イベントレポート>

平成28年度 亀山市内中学生「職場体験学習」～三重森林管理署～

平成28年6月6日（月）から6月10日（金）までの5日間に渡り、亀山市内の中学2年生4名の生徒を受け入れ、「職場体験学習」が実施されました。

5日間では、国有林の業務概要説明、入札見学、境界管理のためのゴミ拾い、素材生産事業箇所の見学、種の飛ばし方実験、測定と検測、治山工事箇所の見学、UAV（無人航空機）による崩壊地の現況把握、収穫調査の体験、除伐、枝打ち体験を行いました。

初日は、署長による国有林の業務概要説明を受け、入札現場の見学、そして、境界管理のためのゴミ拾いを行いました。生徒からは、「森林には大切な機能がいっぱいあることを知った」、「実際に山に入ってみて、涼しくて気持ち良かった」、「綺麗な山なのにゴミを捨てる人がいるのは悲しい」などの感想があり、山を大切にしなければいけないことを学びました。



【業務概要説明】



【境界管理のゴミ拾い】

2 日目は、素材生産事業箇所として、スイングヤーダ方式による列状間伐木の集材作業、チェーンソーによる枝払いと玉切り作業を見学しました。間伐の効果や木材生産を行うことの意義の説明を受け、小型グラップルの操縦を体験しました。種の飛ばし方実験では、マツやモミジ等の飛ぶ種の模型を使って、植物の子孫繁栄方法を学びました。生徒からは、「機械の操縦は難しかったけど、重たい木を持ち上げたときは嬉しかった」、「種がどうやって飛んでいくのか知れてよかった」などの感想がありました。



【小型グラップルの操縦】



【種の飛ばし方実験】

3 日目は、トランシットによる測定と検測による境界標の探し方を体験しました。生徒からは、「器械を設置するのが簡単そうに見えて難しかった」、「ひとつひとつの作業が難しかったけど、慣れてきたら分かるようになり楽しかった」などの感想がありました。



【トランシットによる測定と検測】



4 日目は、治山工事箇所を見学し、崩れた山をどのように復旧していくのかを見てもらいました。人が調査に立ち入ることができない崩壊地は、UAV（無人航空機）を用いた写真撮影による現況把握を行いました。生徒からは、「崩壊地や木の流れているところを見て、自然の怖さが分かった」、「機械の操縦は難しいと思っていたが、実際に使ってみると案外簡単だったので楽しかった」などの感想がありました。



【UAV(無人航空機)の説明】



【治山工事箇所の見学】

5 日目は、森林の材積を測る収穫調査や保育作業の除伐、枝打ち体験をしてもらいました。生徒からは、「木の高さを測るのは、慣れないと難しい」、「思ったよりも木の高さが高かった」、「木が倒れた後、周りが明るくなったので嬉しかった」などの感想がありました。

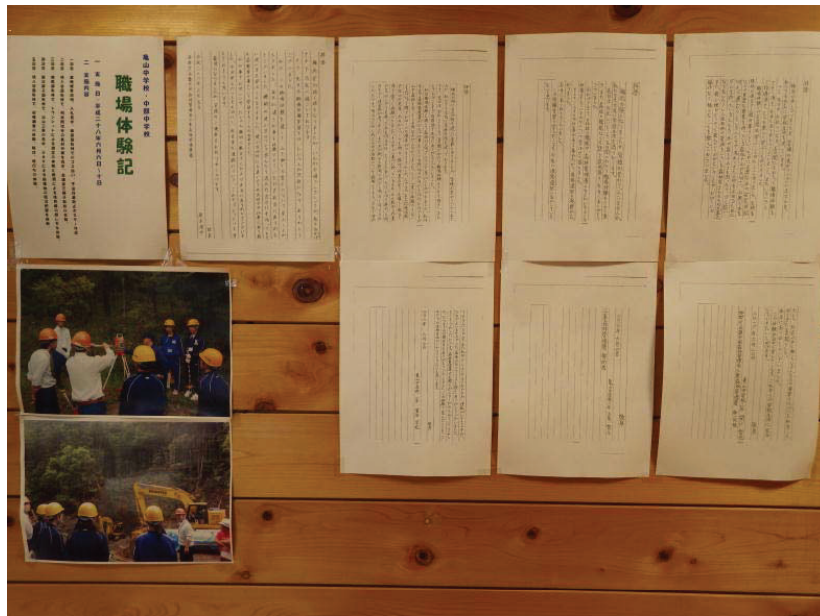


【収穫調査】



【除伐、枝打ち体験】

この体験を通じて生徒たちも森林の大切さや人との関わり、林業に携わる人々について興味を持ってもらい、そして、いつかは一緒に働ける日が来てくれたらと思っています。



【生徒達からの御礼状】